2024 年度 織田きもの専門学校

学校関係者評価報告書

(令和 6 年度)

評価対象期間

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

織田きもの専門学校

学校関係者評価委員会

1. はじめに

2024年（令和6年）4月1日～2025年（令和7年）3月31日を評価対象期間とした自己点検評価報告を元とした織田きもの専門学校学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここにご報告いたします。

本校が社会およびきもの業界に対して高い価値を提供すべく、より良い教育を目指すため、委員の皆様にご評価とご意見をお伺いいたしました。学校関係者評価の結果を踏まえ、学校運営の更なる改善と教育の質向上に努めて参ります。

開催日：2025年5月9日（金）14：00－15：30

会 場：織田学園第8校舎 理事長室

2. 学校関係者評価委員（敬称略）

氏名	所属	役職等	種別
山野 晴雄	多摩地区高等学校進路指導協議会	顧問	元高等学校教員
上乘 幸喜	株式会社 三松	取締役	関連業界 企業役員
花澤 一美	株式会社撫松庵	営業	関連業界 卒業生

3. 自己評価に対する学校関係者評価委員の評価方法

学校より自己評価の各項目について関連資料を交えて報告と説明を行い、自己評価の評価点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切・未実施…1）が適切か適切でないかを学校関係者評価委員3名よりそれぞれ評価をいただいた。

4. 自己評価に基づく学校関係者評価

【1. 教育理念・目標・育成人材像】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
理念・目標・育成人材像は、定められているか。	4	適切 3名
学校における職業教育の特色が明確になっているか。	4	
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	
学校の教育理念やポリシーは学内外に広く公表されているか。	4	

<ご意見・評価等>

- ・学校案内・HPに教育理念・目標に基づいて学校の特色が分かりやすく記載されている。
- ・3つのポリシーについてもHPに掲載されている。
- ・時代の流れに応じて改訂を検討しているのは良いと思う。
- ・理念・目標は情操教育や着物に対する専門性の修得が表現されていて良い。
- ・少子高齢化を踏まえた学生募集を考える意味でもグローバル化に一層取り組む必要があると思うので、それを目標に盛り込むべき。

【2. 学校運営】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念・目標に沿った運営方針が定められているか。	4	適切 3名
学校関係者評価を有効に活用できたか。	4	
入学定員は適正に設定されているか。	4	
効果的な教育成果を得ることを目的として教育課程の見直しがされたか。	4	
各種検定の合格率向上のためカリキュラムの再確認及び改訂が行われたか。	4	
外部講師の存在を学校・学生のために有効に活用できたか。	4	
コラボ企業や就職先等から教育ニーズを聴取したか。	4	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	

<ご意見・評価等>

- ・企業人講師と連携してカリキュラムを作成し、成果を上げていることは評価できる。
- ・今後は関連企業との協議の場を定期的に持つことを検討して欲しい。
- ・海外経験豊富な人材を確保し、その視点からの和・着物文化のカリキュラムがあると、

海外からの学生の受け入れがしやすくなる。

・業界でも視野を広げて活動している方々が増えているので、そのような方々とコミュニケーションをとって、学生の視野も広がればよいと思う。

【3. 教育活動】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念に沿ったカリキュラムになっているか。	4	適切 3名
教育カリキュラムは体系的に編成されているか。	4	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点で、カリキュラムや教育方法の見直しがなされているか。	4	
実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか。	4	
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	
教員間で様々な悩みについて共有できる職場環境であったか。	4	
教員のスキル向上のための研修や自己啓発は促進できたか。	4	

<ご意見・評価等>

- ・毎年修正を加えながらカリキュラムを編成し、企業人講師や企業とのコラボレーション授業など、実践的な職業教育が行われていることは評価できる。
- ・教員の研修も継続的・計画的に実施していくことを望む。
- ・対面授業とオンライン授業を効率的に組み合わせることの検討も進めてもらいたい。
- ・学生に人気のある授業や教員の共通項は把握できているか？
- ・360度評価の発想を活かせれば、教員の悩みが減少するのではないか。

【4. 学修成果】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
生活支援の充実化は図れたか。	4	適切 3名
教育支援の充実化は図れたか。	4	
就職支援の充実化は図れたか。	4	

<ご意見・評価等>

- ・経済的困難を抱える学生に対する相談・支援の体制をより充実させ、学業と両立できるように努めて欲しい。
- ・少人数できめ細やかな学習指導が行き届いている点は評価できる。
- ・細やかに学生とコミュニケーションの取れる体制はとられている。

【5. 学生支援】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか。また、退学原因の分析と対応策の検討、実施はされたか。	4	適切 3名
学生のメンタルヘルス対応は積極的に取り組めたか。	3	
卒業生への支援体制はあるか。	3	
家庭との連携は適切だったか。	4	

<ご意見・評価等>

- ・対応に関する数値の公開があると、どの程度の実績なのか判断できると共に目標設定に役立つ。
- ・家庭との連携、教員間での情報共有を密にし、誰でも相談にのれる体制を作り、退学者を減らすように努めて欲しい。
- ・貴重な人材であるので、卒業生に対する支援強化に努めて欲しい。

【6. 教育環境】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
卒業生・在校生・学校間のネットワーク構築への取り組みについて進捗・改善は見られたか。	4	適切 3名
施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3	

<ご意見・評価等>

- ・各所とのネットワークがどの程度就職や再就職に結びついたかを開示して欲しい。
- ・和裁用具の生産が縮小しているとのことなので、授業に必要な用具を計画的に確保していくことも検討して欲しい。

【7. 学生の受け入れ募集】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
オープンキャンパス(OC)参加者の増加は達成できたか。	4	適切 3名
OCからの取り込み率は向上できたか。	4	
OC時の参加者対応スキルの向上は図れたか。	4	
OCの結果等の分析や、コース内容のブラッシュアップ等について学校と広報とで十分な意見交換ができたか。	4	
学生募集における学校の訴求ポイントについて広報と協議の上で決められたか。	4	
広報物の訴求の一貫性を図れたか。	4	
広報物の制作にあたり、学校と広報とで意見交換が図られたか。	4	
広報担当スタッフとの連携を強化できたか。	4	
SNS等、学校の認知PRは適切に行えたか。	4	

<ご意見・評価等>

- ・HP、SNSなどでの情報発信を工夫し、オープンキャンパスも学生の協力を得て実施しているのは評価できる。参加者・取り込み率が増えたのも良かった。
- ・社会人や留学生など、幅広い層をターゲットに着物・和裁の魅力を発信し、オープンキャンパスへの参加、入学につなげていく努力もお願いしたい。
- ・ホームページに他言語への変換機能を付けて欲しい。
- ・着物の専門学校が存在することを知らない人が多いので、拡がりやすいSNSの活用はとても良いと思います。

【8. 財務】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
経営感覚の教職員間での共有は図れたか。	4	適切
会計監査は適正に行われているか。	4	2名

<ご意見・評価等>

- ・財務改善には入学者の増加と退学者の減少に教職員一丸となって取り組むことが必要。
- ・財務改善のための中・長期計画を作成し、取り組む必要がある。
- ・(不適切) 状況が何年も変化なし。既に支出の抑制は可能な限りなされているのか。学生数の確保が黒字化には足りてないのでは。ここに焦点を当てるべき。

【9. 法令等の遵守】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
コンプライアンス意識を再確認できたか。	4	適切
自己評価の結果を公開しているか	4	3名

<ご意見・評価等>

- ・社会の変化に対応しながら改訂して欲しい。
- ・情報公開はできれば過去3年分はアーカイブとして公開して欲しい。

【10. 社会貢献・地域貢献】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
地域や地方公共団体と連携した企画を積極的に実施しているか。	4	適切 3名

<ご意見・評価等>

- ・今後も地域や自治体と連携したイベントに積極的に参加して欲しい。
- ・学校の繁栄が地域貢献になりますので、今後も各種イベントに参加願います。

【11. 国際交流】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
国際交流を推進する体制は整備されているか。	4	適切 3名

<ご意見・評価等>

- ・海外からの留学生が増加することを願います。その際は必ず言語の壁が生じますので、和文化を理解し、かつ外国語を話せる人材の確保をお願いします。
- ・海外研修を実施し、現地で着物ショーを行うなど、国際交流を進めたことは評価できる。
- ・着物に興味のある外国人が増えていますので、SNS発信の継続はとても良いと思います。アジアだけでなくヨーロッパの方々も着物を購入しています。

5. 総評

・東京では数少ない着物・和裁の専門学校であり、着物の魅力を業界と連携して積極的に発信して人材を発掘すると共に、実践的な職業教育を通して確かな技術と知識を備えた人材の育成に努めていただきたい。

・グローバル化が進む中、訪日観光客が4000万人に迫ろうとしています。日本文化の重要なコンテンツが和・着物にあります。学校の在り方を見つめ直すことで、まだまだ学校の持続的発展が見込めると思います。伝統と新しさ（変化）で海外からも注目される学校となることを願っています。

・業界では後継者不足で悩まれている企業が多くあります。本校で着物を学び、これからの世代を担う方々はとても貴重な存在ですので、企業へ更なるアピールをし、就職先の職種が広がればとても良いと思います。

一方で就職後の退職率も高いので、学校と企業との連携や、学校生活の中でのメンタル強化等ができれば素晴らしいと思う。

・着物・和裁分野を志望する高校生は少ないが、イベントなど社会貢献・地域貢献に協力することで、一人でも多くの人に着物の魅力を再認識してもらう機会を作り、入学者の確保につなげて欲しい。

織田きもの専門学校
学校関係者評価委員会